あんどう　とし　ひろ

安藤利博

議会報告

第４号
令和４年３月

発行人：安藤利博
〒709-0721　赤磐市桜が丘東 4-4-695
TEL・FAX　086-995-3714
携帯番号　090-7137-6605
E-mail　qqjiteki5963@gmail.com

（議会中継）　（LINE）

総務常任委員会・予算審査特別委員会より

今回より、予算案については予算審査特別委員会で審議することになりました。所属委員会所管部分については所属委員会で行ない、予算委員会では原則発言しないことになりました。

市民バス運行事業

・バス利用者は不特定多数の市民ではない。自家用車を持たない世帯数の把握が必要
・運行経路、便別の利用者数の把握を
（この結果を基に、再度一般質問する予定）

（誰も乗っていない市民バス）

結婚支援事業

・少子化は結婚した夫婦が子供を産まないのではない。未婚、晩婚化が主な原因。
・折角の支援策が、ホームページに紹介されていない

防災行政無線個別受信機

・防災無線と緊急告知ラジオは目的が違う
・防災無線放送が聞きづらいところが多い
・希望者には有料でも個別受信機の配布を
（4 年度予算には計上されていませんが、引き続いて要望していきます）

敬老会助成金

・R4 年度予算は 17.2 百万円。毎年約 1 百万増えている。R5 年度は 18 百万円を超える
・毎年は不要（例えば 75 歳、80 歳のみ）
・保健福祉部内でも、もっと優先順位の高い事業がある。見直しを要請
（これ位が出来ずに行財政改革は出来ない）

成年後見制度

・相談窓口の中核機関開設は評価できる
・問題に直面する前に対応しておくことが肝要であるが、この制度はまだ殆ど知られていない。ホームページにも紹介されていない。高齢者への啓発、周知を積極的に

石蓮寺みんなの森案内板

・熊山町時代の古い案内板で、何が書かれているか分からない
・4 年度は予定していないようだが、みっともないので 5 年度には修繕の検討を

一 般 質 問 より（発言趣旨を補足して記載しています）

新新型コロナ対策（全施設閉鎖）

- 感染対策は重要であるが、発生から既に２年が経過している。控えること、許容できることの見極めが大切
- 赤磐市が全施設を閉鎖した一方で、瀬戸内市備前市、和気町などは施設を閉鎖していない
- 公民館や桜が丘いきいき交流センターなどの屋内施設にとどまらず、屋外のテニスコートグランドゴルフ場までの閉鎖は、感染防止というより、責任回避の過剰反応
- 換気の悪い議場を閉鎖せず、広いグランドを閉鎖する矛盾に気付いていない
- 正当防衛も度が過ぎれば、過剰防衛となり、罪を問われる
- 前回までの施設閉鎖では、やむを得ないと我慢したけれど今回はなんでそこまでするのかと疑問に思う方が多い。
- 特に、高齢者は百歳体操やふれあいサロンでの接触機会が減って楽しみがなくなり、体力減退、フレイル進行が懸念されている
- 感染者数、発症者数、重症者数、死亡者数を聞いたが、岡山県は市町村別感染者数しか公表していないとして詳細は把握していない
- 感染者数を基に閉鎖したのなら、まん防解除後に赤磐市の感染者は再び増加しており、再度施設を閉鎖すべきではないか（下図参照）
- 行動制限を見直して対策を取っていくのが、経験から得た知恵

文 化 施 設 整 備

- 中央公民館の改修は、客席は増やすものの肝心のステージは奥行き５mで変わりません。これではオーケストラは勿論、中学校の吹奏楽部や20人を越えるグループの演奏は出来ません。
- 反響板もなく、この公民館では音楽ホールの代用にはなりません。
- 岡山県下25の市町で文化ホールが無いのは、赤磐市と１町だけです。

（他自治体の文化ホール）

- 人口、財政規模が赤磐市の 1/2～1/3 の町でも文化ホールがあります。年収500万円でマイホームを持っているのに、年収1,200万円でもお金がないから建てられないと言っているようなものです。
- 赤磐市には多くの基金があります。

財政調整基金	5,274百万円
地域振興基金	2,443百万円
公共施設整備基金	892百万円
ふるさと応援基金	278百万円 他

（令和２年度末）

条例で決めた使用目的に合う基金もあるはずです。積み上げるだけでなく、必要なものに使ってこその基金です。

- 赤磐市ゆかりの音楽家には、福田廉之介さん（メニューイン国際コンクールジュニア部門優勝）、富田心さん（ベルリン国際音楽コンクール金賞）など世界的なバイオリン奏者がおられます。これらの方が演奏できるホールが無いのは残念を通り越して、恥ずかしい限りです。

（今後も引き続き、この問題を取り上げます）

桜が丘中央利用計画

・地権者との交渉については、相変わらず地権者の意向尊重が重要、具体的な内容について答えることはできないとの回答。本気で解決しようとしている姿勢が全く感じられない。

・９月議会で要請した、廃店舗の補修もされる気配はない。環境美化条例に基づく要請さえもしていないのではと疑われる。

・市は、５年前と２年前に民有地の隣接地、約6,600 ㎡の土地を取得しているが遊休地のまま。市長は駐車場に使用していると強弁するが、元々桜が丘いきいき交流センターの駐車場には桜が丘プラザの駐車場がある。

・現在駐車場に使っているところだけでも 3,700 ㎡あり、ここだけでも文化ホールは十分建設できる広さがある。

・桜が丘中央の一体的な利用を視野にいれていく、というものの、地権者との交渉は一向に進まない。結局自分が取得した 6,600 ㎡の市民のための市有地が遊休資産、“死産”になっている。それに痛痒を感じていない。無責任すぎる。

交通マナー、安全対策

・交通マナーの向上には、毎日登下校の見守りをされている PTA の旗当番、ボランティアの協力が一番。しかし、見守り方法が個人任せで、横断歩道での車の一時停止、手上げ横断、指導方法等が統一されていない。

・なかには、わざわざ横断歩道で子供を止め、車を先に行かせる、交通違反をそそのかしているケースもある。これでは「一時停止ワースト」は返上できない。組織としてするのであれば、最低限の指導方法は統一すべきだと思います。

・桜が丘に「ゾーン３０」は適用できない。これで終わり。自治連合会の要望の趣旨は、危険だから住宅地の車のスピードを抑えて欲しいということ。「ゾーン 30」がだめならそれに変わる方策を何故とらないのか。スピード抑制にはハンプが一番効果的です。

・12 月議会で金谷議員が提案された、横断歩道で一時停止を促すステッカーを、素早く作っていただけました。

（出来れば後続車から見やすいように
もう少し大きめに作って欲しかった）

この問題は時間が無くて、十分議論できませんでした。改めて取り上げる予定です。

市庁舎耐震改修予算について

・予算計上されている本庁舎改修工事費を、予備費へ振り替える修正動議が出されました。
新型コロナやロシアのウクライナ侵攻等のため、資材高騰や入手困難など、想定していなかった事態が発生しています。そのため、当初計画通りに進めて良いのか、その対応を検討しておくべきではないかという趣旨です（このままでは入札不調、工期遅延等が心配されます）

・私は、今の状況では予算オーバーは避けられないと判断して、修正動議に賛成しました。
しかし、修正動議は、賛成少数で否決されました。

・その後の予算採決では、耐震工事と最小限の改修そのものは必要だと考えているので、賛成しました。

議員生活一年間の感想

執行部の体質

・データ思考の欠如

コロナ対応、市民バスなど判断根拠になるデータを殆ど持っていない
許容範囲、費用対効果の検証もできない

・改革意欲の欠如

前例踏襲で、議員から出される提言にも消極的な対応が多い
行財政改革は、言葉だけの絵空事か
ビルド＆スクラップに取り組む姿勢が感じられない

・実行力の欠如

市庁舎耐震改修は動き出したものの、桜が丘中央再開発、新拠点整備、最終処分場など、懸案のプロジェクトは遅々として進まない

お知らせ「桜が丘駐在所」電話ボックス

「交番」と「駐在所」の違いはよく知られていません。
「駐在所」は警察官が駐在所に居住しているという意味で、勤務内容は警ら・巡回連絡等が主で「交番」と殆ど変わりません。駐在所といいながら警察官が不在の時が多いのはこのためのようです。

駐在所の入口の左手に赤磐署への直通電話があります。

私も最近まで知らなかったので、分かり易いように電話ボックスにラベルを貼っていただきました。

赤磐市は、赤磐警察署の赤磐市への移転を要望していますが、なかなか実現しません。その前に駐在所を交番にすれば、交番には「交番相談員」が配置できます。
警察官不在の時の相談が出来ます。この方が先決かと思います。

安藤利博 議会報告会

安藤の議会での模様は「赤磐市議会だより」や、「議会報告」でお知らせしていますが、紙面の関係から要点だけです。

そこで、より詳しい内容をお聞きいただくと共に、皆さんからのご意見、ご要望をお伺いする機会として、議会報告会を計画しました（当初、１月に予定していた報告会です）。

ご都合が付けば是非ご参加下さい。

日　　時　　令和４年４月23日（土）午前10時～12時
場　　所　　赤磐市立中央公民館　視聴覚室